

藤田のぼるの

## 「童話作家のアイウエオ 第2週目」

## 【ア】あんびるやすこさん

前回「令丈ヒロ子」さんまで周ったところで、今回から再び、「ア」から始めることにします。最初にご紹介したあまみきみこさんもそうですが、あさのあつこさん、そして今回紹介するあんびるやすこさんと、「ア」で始まる作家は全部平仮名というお名前が目立ちます。

さて、あんびるさんですが、図書館に行けば、「なんでも魔女商会」「ルルとララ」「魔法の庭ものがたり」シリーズなどがズラリと並んでいて、特に小学校低・中学年あたりまでの女の子たちに圧倒的な人気を誇ります。実は僕の娘も小学生の時にあんびるさんのファンで、僕は仕事柄(?)そういう公私混同めいたことは控えているのですが、娘のためにあんびるさんに本にサインをお願いしたことがあります。

そのあんびるさんは、大学卒業後テレビアニメの美術やおもちゃの企画デザインなどを手掛けた後、子どもの本の世界に参入してきました。二〇〇三年から始まった「なん

でも魔女商会 お洋服リフォーム支店」がデビュー作ですが、最初からシリーズとしてのコンセプトや戦略を明確にしていたあたりが、普通の新人とは違うところでした。人間の側の主人公は、都会から緑豊かな街に引っ越してきたナナ。下校の途中、小さな森の中でレ

ンガ作りの古い家を見つけます。看板には「なんでも魔女商会 お洋服リフォーム支店」とあり、そこにいたのはナナと同じくらいの年の、なにやら気難しそうな女の子(これがリフォーム魔女のシルク)と、召使いネコのコットンでした。これがきっかけで、ナナはシルクの店に行くようになり、時に手助けを務めるようになっていきます。シルクは確かな裁縫の腕を持っているのですが、あくまでもリフォームが仕事で、新しい洋服を作ることはありません。それがシルクのこだわりであり、「なんでも魔女商会」の支店としての掟でもあるのです。そしてそのあたりから物語が徐々に展開されていきます。あんびるさんは絵や装丁も自分で手掛け(そうでな



『なんでも魔女商会 お洋服リフォーム支店』  
岩崎書店  
あんびるやすこ/作・絵

いシリーズもありますが)、作品世界をまさしくまるごと作っていきます。

さて一昨年のことですが、僕が役員を務める児童文学者協会に、オリンピックの組織委員会から連絡があり、東京五輪のマスコットを選定するための委員を推薦してほしいということでした。オリンピックに対しては様々な意見もあり、会としての推薦はできかねるが、という前提で、あんびるさんの名前をあげました。これ以上の適任はないと思っただのです。全国の小学生の投票という異例の方法で決まったマスコットですが、あんびるさんの一票はどうだったのでしょうか。

◇藤田のぼる(ふじたのぼる)

1950年秋田県生まれ。児童文学評論家・作家。日本児童文学者協会副理事長。聖学院大学他講師。著書に『児童文学への3つの質問』(てらういんく)、『少年少女の名作案内』(共編、自由国民社)、『場所』(共編、創作物品)、『山本先生新聞です』(岩崎書店)、『軸を上げて』(文溪堂)、『みんなの家出』(福音館書店)、『2014年度産経児童出版文化賞フジテレビ賞』などがある。小学校国語教科書編集委員、NHK学校放送企画委員なども務める。